

iPS細胞の基礎知識から最先端の研究動向まで解説した講演(京都市下京区・キャンパスプラザ京都)



下京で府民講座、開発経緯も解説

iPS細胞の可能性学ぶ

iPS細胞(人工多能性幹細胞)の仕組みを分かりやすく解説する府民講座が14日、京都市下京区のキャンパスプラザ京都で開催された。臨床への応用が進みつつあるiPS細胞の可能性について、約100人が理解を深めた。

病態生理学を専門とする京都薬科大の芦田。原英司教授が講演。筋肉や神経など体のあらゆる組織に変化する受精卵の性質から説き起こした。京都大の山中伸弥教授による受精卵に似たiPS細胞の開発経緯を解説した。「タンパク質を入れて細胞の種類を変化させるのは科学的にすごいこと」と強調した。

講演後は、顕微鏡をのぞいて実際にiPS細胞を観察。参加した江坂陽子さん(84)＝伏見区＝は「科学に興味があつて来た。細胞の種類を変化させる難しさがよく分かり、楽しかった」と満足していた。

講座は、府保健環境研究所が主催した。(広瀬一隆)